

# KIKI

ゆっくりと、エコを楽しむ。

エコジン・インタビュー  
[ecojin\_interview]



エコロジーをテーマにしたテレビ番組の出演をきっかけに、地球環境問題と向き合い始めた、モデルのKIKIさん。長い時間をかけてみつけた、自分なりの「エコライフ」を教えてくださいました。

写真／かくたみほ 文／佐々木香織

エコジン vol.7  
2008年7月号

デザイン  
Tattaka、泉沢儒花 (Bit Rabbit)

cover写真提供  
田中正秋 / アフロ  
北海道洞爺湖サミットの会場となる「ザ・ウインザーホテル洞爺」。

# エコジン

7月号

[エコジン]  
Vol.7 Jul. 2008

## CONTENTS

03	エコジン・インタビュー KIKI「ゆっくりと、エコを楽しむ。」
06	特集 エコサミット入門
16	海外エコ事情
18	特集2 京都での約束を果たすために
22	エコジャーナル
24	エコ百科 「第2次循環型社会形成推進基本計画」
26	エコジン・レポート 「めぐる、食べもの。」
32	エコジン・アイ
33	エコ生活のもと
34	エッセイ 大江戸エコロ帖 第七回 「土に還る(と)浴衣の一生」 文／石川英輔
35	エコモノ

エコジンとは、“エコロジー+人”、“エコロジー+マガジン”のこと。環境のことを考える人が一人でも多くなることを目指す、環境省発信のエコ・マガジンです。  
※本誌の掲載文のうち、執筆者の意見にあたる部分については、環境省の見解と異なることがあります。

体験を通して、「エコロジー」を伝える。



KIKI (きき)  
東京都出身。武蔵野美術大学建築学科在学中からモデル活動を開始。CMや著書「LOVE ARCHITECTURE」、映画「ヴィタール」出演など多方面で活躍。雑誌の連載に「KIKIのどうなってるの?eco」(『ecocolo』)など。現在、J-WAVE「TOKYO SMART DRIVER "SHARE SMILE"」ナビゲーター。NHK「地球データマップ」も深夜再放送中。  
ホームページ <http://kiki.vis.ne.jp>  
ブログ <http://blog.honeyee.com/kiki/>



KIKIさんの"マイ水筒"コレクション。

小さいころから「ごみの分別」や「ものを大切にすること」が当たり前だったというKIKIさんが、「エコ」を意識しはじめたのは、NHK教育テレビ『地球データマップ』の番組ナビゲーターを担当してからのこと。

「番組では、環境汚染や地球温暖化など、さまざまな地球上の問題を取り上げてきました。番組を始める前は、こうした問題はどこか遠い国のできごとだと思っていました。すべて自分の身近なこととながっている」と知って、とても驚いたんです。

たとえば、地球温暖化と毎日食べている食料との関係。外国産のフルーツは、輸送の際に大量のCO<sub>2</sub>を排出させている。遠い国の食物を選ぶことが地球に負荷をかけているのかも——。そんなふうにわかりやすく伝えることで、KIKIさんも「今の地球」の抱える問題が、身近に感じられるようになっていった。だが、ここでひとつの悩みが生まれる。

「問題があまりにも多くて、頭の中が整理できなくなりました。たとえば問題がひとつ解決したとしても、人類がするべきことは山積みのまま。何とかしなくちゃ!」と思っても、私には具体的な行動に移す時間もな

くて、自分のなすべきことがわからなくなりました」

しかし、番組の中でさまざまな体験をしていくうちに、KIKIさんの考えは徐々に変わっていく。中でもKIKIさんにとって重要な体験となったのが、PCBという環境汚染物質の血中値をはかる企画だった。PCBは、マグロ、カジキといった魚に含有されやすいといわれている汚染物質だ。

「この数値が、私の場合30歳前後の女性の平均値よりも高かったんです。ショックでした。比較的規則正しい生活を送っているし、食事もバランスよくとっていたつもりでした。でも、この検査がきっかけで、地球の問題が自分の身体に直結していることが身にしみてわかったんです」

番組を通して、インプットされる多くの情報をだんだんと整理できるようになったKIKIさんは、環境問題について、体験したことを自分のスタイルで「伝える」ことこそ、自分のなすべき行動だと気づく。

「特別にエコのための運動をするわけではありません。雑誌やテレビ、ラジオなど、さまざまなメディアを借りて、私が吸収したことを伝えてい

ければと思っています」

雑誌「エココロ」の連載では、KIKIさんがいろいろな体験を通して知ったエコライフを伝えている。「体験といっても、地元の食材を使うお料理教室だったり、蜜蝋(みつろう)キャンドル作りだったり。読んでくれた人からは「なんだか楽しそうだね」って言われますが、どんなことだって楽しくないと伝わりませんよね。エコライフだって、そう。ストイックでは続かないと思います。楽しいことを続けていたら、いつの間にかエコにつながっていた。スピードはゆっくりかもしれないけれど、そのほうが自然でしょう?」と微笑む。

楽しむことといえば、ふだん持ち歩いている「マイ水筒」も同じ。

「自分でいれたおいしいお茶をいつでもどこでも飲みたいから、水筒に入れて持ち歩いています。おしゃれな水筒は持っているだけで気分がいいし、結果的にペットボトルなどのごみも減らせます。何よりもうれいのは、「かわいい水筒だね」って、真似してくれる人が増えたこと。人と人が同じ気持ちでつながっていくことで、私たちはまだまだ地球を守っていけると信じています」